

A-84 ビタミンB₂酪酸エステルの表面張力性状

名古屋聖靈短大 ○山本良子 戸松京子 長谷川英子

目的 水溶性ビタミンB₂に酪酸を結合させた脂溶性ビタミンB₂と言うべきビタミンB₂酪酸エステル(B₂-But)は、生体内においての貯留性はむしろB₂としての生体内効果を発揮することはすでに報告されている。また、生体内の非酵素作用すなわら生体内の過酸化脂質の除去作用をも発揮することは周知のところであり、臨床方面においてすでに応用されている。またこのB₂-Butは臨床方面のみでなく、食品添加物としても使われ、B₂摂取上役立つと同時に脂肪なうびに脂肪含有食品への添加は抗酸化剂的役割を果すことによりその食品の品質保持上の一要因となり、食品の味質にも好影響を与える。このように生体内においても、また食品添加物としても効果のあるB₂-Butを応用するにあいの基礎的な性状として表面張力の一参考性状であると考へ測定した。

方法 表面張力の測定は、Du Noüy の表面張力計(吉田製作所製)によった。すなわちB₂-Butの一定濃度溶液を調製し、pHによる表面張力の変化、温度による表面張力の変化を測定した。

結果 B₂-Butは脂溶性であるがpH4~7で 0.7×10^{-5} M程度水に溶解して、表面張力低下能力を示した。温度による表面張力の変化はpH4~7の範囲で10°C~40°Cの測定では界面活性を發揮し表面張力低下能力をあらわした。